

『障がい者や若者とのネットワーク推進に向けた
福祉クラブ生協・心得講座開催報告』



福祉クラブ生協では、2020年度、障がい者や若者等の社会参加の促進、及びコミュニティワークの社会的価値を高める視点を持ち、組合員とのつながりによる多様な層の参加をひろげていくことが方針化されました。コロナ禍の中、中止にするのではなく参加人数を制限し会場を4ヶ所に増やし、活動方針の確認、共に働く意義や心得を学び多様な業種のワーカーズが受け入れ体制を作ることができる「福祉クラブ版心得講座」をワーカーズ・コレクティブ協会と連携し開催しました。

福祉クラブ生協では、2007年に「福祉クラブと障がい者とのネットワーク方針、研究・開発プロジェクト」を設け、内包してきた障がい者や若者との選択の幅を広げること、ワーカーズ・コレクティブの働き方をさらに豊かに幅を広げることが目的にネットワーク方針を持ち、この方針を進めることにしました。その趣旨に沿い心得講座をはじめ、今年で13回目の開催になります。

今回は、各地域の障がい者支援機関、養護学校教諭等を講師に招き、障がい者(主に発達障害・知的障害、自閉症、統合失調症等)の特性について学ぶ機会とするほか、各支援機関や養護学校の先生方に福祉クラブ生協、ワーカーズ・コレクティブの取り組みを知ってもらうこと、地域の支援団体との連携の可能性についても視野に入れて、心得講座を組み立てました。地域の支援団体や養護学校の先生から障がいの特性についての専門的なお話や、制度の学習ができたことはとても良かったと思います。



グループ討議では

- 障がいをお持ちの方がいらっしゃる組合員さんからは、福祉クラブでこのような活動をしていることを知らなかった。励みになった。
- 現在受け入れをしているワーカーズからは、障がいの特性を学習したことで、接し方がもう少し上手くできそう、少し自信が付いた。
- 過ごしやすい環境をつくるのが大切。条件を整えることによって、能力を十分に発揮することなど本日の講座の内容をメンバーと共有したい。
- 支援の基本的な理念を忘れない事が大切だと思った。
- 障がいと一言で言うが、色々な方がいてその人にあわせた対応をしていくことが大切だということ。等々活発な発言がありました。事例発表では自組織以外の様々な実践取り組みの事例を聞くことで受け入れの幅を広げる参考になりました。

それぞれで取り組んでいる支援の内容に違いはありますがワーカーズ・コレクティブが本来持っている、多様なかわり方を受け入れる柔軟性があるからこそ、広がってきたことを確信しました。ワーカーズ・コレクティブ協会との連携でさらなる広がりを推進してきた事などを共有しました。

さまざまな人達が一緒に暮らしていく社会の考え方、福祉クラブが目指す街づくりの事、自組織での受入れについて思った事など皆で話し合ってもらいたいと思います。メンバーと共有し、ワーカーズ・コレクティブ協会のノウハウを借りながら、今後も障がい者、若者達とかわり方を続けていきたいと思っています。お互いに支え合える地域を作っていく事が大切なんだと改めて感じました。(福祉クラブ 有賀恵子)

